

アートに親しむ

益子陶芸美術館から

第66回

竹耕藝 勝城蒼鳳 | 那須野が原に生きて |

森羅万象の美を竹工芸へ映し出す詩情豊かな作風で知られ、昨年1月に惜しまれながら逝去した栃木県大田原市の竹工芸家、勝城蒼鳳の企画展を開催します。

勝城は1934年栃木県高林村箕輪(現・那須塩原市)に生まれました。15歳から竹細工の技法を学び、1965年から八木澤啓造に師事します。2年間の修行のち八木澤から「蒼鳳」の名を授けられると、1968年に竹細工から竹工芸の道を志すようになります。さらに八木澤が竹工芸の指導でフィリピンに渡っていた5年間は、斎藤文石に指導を受けています。第30回日本伝統工芸展で都知事賞、第44回同展でNHK会長賞を受賞するなど数々の受賞を重ね、2005年には重要無形文化財「竹工芸」保持者に認定されました。

勝城は自らが目にした自然の景色を自由自在に竹で表現します。竹は絵画のような具体的な表現はできませんが、ひとつひとつ勝城作品に直面すれば、まるで眼前にその情景が広がっていくかのような感覚を得ることでしょう。半農半工を生涯

続け、栃木の大地で育まれた竹を用いてその自然を表現し、勝城が耕した作品の数々をお楽しみください。

休館

月曜日(祝日の場合は翌日、ただし

4月30日(火)は開館

無料開館日

5月11日(土)〜19日(日)(町民無料)、

6月15日(土)(県民の日 無料)



勝城蒼鳳《根曲竹摺漆花籃「颯然」》2016年 国立工芸館蔵

問 益子陶芸美術館 ☎ (72) 7555

益子国際工芸交流事業2024 アーティスト・イン・レジデンス in 益子 公募作家2名が益子に滞在します



益子陶芸美術館 ホームページ

益子国際工芸交流事業は10年目を迎え、5月末から2名の公募作家が滞在し制作します。テーマは「食器と食事」、2人にとって、食器は食べものを盛り付けるだけではなく、思考や感情、創造性を表すものの一部として捉え、オリジナルな食器を制作しています。



ジラウオン・ウアントランガン [陶芸家・タイ]

滞在期間 5月29日(水)から7月30日(火)まで



ウォン・メイ・ハン・ヨッキー [陶芸家・台湾]

滞在期間 5月30日(木)から7月31日(水)まで

- ①オープンスタジオ [場所 陶芸工房] 6月15日(土)・21日(金)・7月9日(火) 14時から16時
- ②記念講演会 [場所 益子国際工芸交流館] 6月8日(土) 14時から16時
- ③ワークショップ [場所 陶芸工房] 6月30日(日) 14時から16時

- ①オープンスタジオ [場所 陶芸工房] 6月15日(土)・6月21日(金)・7月9日(火) 14時から16時
- ②記念講演会 [場所 益子国際工芸交流館] 6月9日(日) 14時から16時
- ③ワークショップ [場所 陶芸工房] 6月16日(日) 14時から16時